



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.91

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2025.冬・春

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

第71回 企画展 ツツジとその仲間たち —華麗にして奇妙な一族の話—

2025年3月15日(土)～5月18日(日)

共催 新潟県立植物園

群馬県花レンゲツツジ

「第71回 企画展 ツツジとその仲間たち —華麗にして奇妙な一族の話—」関連イベント

①企画展記念講演会

日本のツツジ研究の第一人者が多様なツツジの姿を紹介
します。

- ・講師:倉重 祐二(新潟県立植物園顧問)
- ・2025年3月23日(日) 13:30～15:00 定員:100名
- ・無料(ただし、観覧券の提示が必要です)

②新潟県立植物園ガイドツアー(1日)

世界有数のヤマツツジ類やミツバツツジ類の種類数を誇
る新潟県立植物園で多様なツツジを満喫して、学ぶバス
ツアーです。

- ・主解説:倉重 祐二(新潟県立植物園顧問)
- ・2025年4月20日(日) 7:30 高崎駅東口バス待合所出発
- ・定員:30名(群馬枠15名、新潟枠15名)
- ※直接植物園に行かれる皆様は、新潟県立植物園よりお申
し込みください
- ・入園料・資料代:800円、保険料50円
(高崎駅までの交通費は各自ご負担ください)

③ツツジお花見観察会 in 館林(午前)

日本有数のツツジの名所・館林市つつじが岡公園で、多様
で豪華なツツジを観察します。

- ・2025年4月17日(木) 10:00 つつじが岡公園広場集合
- ・定員:20名
- ・参加費:保険料50円、入園券(大人630円)をお求めの上、ご入園
ください

④ツツジお花見観察会 in 富岡(午前)

珍種オオヤマツツジが主体のユニークな宮崎公園で、
多様で豪華なツツジを観察します。

- ・2025年4月29日(火・祝日) 10:00 宮崎公園駐車場集合
- ・定員:15名
- ・参加費:保険料50円

*ご注意:③、④は開花予想・当日天候の状況によって、1週間
程度前後することがあります。日程変更の場合、当館HPで
連絡いたしますので、ご注意ください。

⑤博物館の日ギャラリートーク

担当学芸員による企画展の裏話やツツジ科植物のエピ
ソードを聞きながらめぐるツアーです。

- ・ガイド:大森 威宏(当館維管束植物担当)
- ・2025年5月11日(日) ①11:30～12:00 ②14:45～15:15
- ・定員:各回10名
- ・無料(ただし観覧券の提示が必要です)

※ 全てオンライン申込です。
申込開始日は当館ホームページでご確認ください。

群馬県の花はレンゲツツジです。また、館林市には全国有数のツツジの名所・つつじが岡公園があります。このように群馬県はツツジと縁が深い土地柄です。もう少し広く見渡すと、ツツジの仲間（＝ツツジ科）は実に多様で、さまざまな環境に適応して生きています。スズランのような花をつけるアセビ、ジャムや健康食品で有名なブルーベリー、高山植

物のコケモモなどは皆ツツジ科です。さらに近年のDNAを使った研究から、全身白ずくめのギンリョウソウなどもツツジ科になりました。本企画展では、美しいツツジの世界を映像や写真で紹介するとともに、時に奇妙で意外なツツジ科植物の多様さとその生態、また人との関わり合いを紹介します。

(生物研究係 大森 威宏)

自然のコラム チョウ目の多数派

昆虫の分類でチョウ目^{もく}というのがあります。いわゆるチョウとガがここに入ります（実はチョウとガには明確な区別はなく、フランス語ではどちらも「パピヨン(papillon)」です）。このうち、大多数を占めるガについては「苦手」という方も多いのではないかと思います。しかし、ガの中にもチョウのように昼間活動するものや、アゲハモドキ (*Epicopeia hainesii*) のように見た目もチョウと区別がつかないきれいなものもいます。また、小さなガであってもその翅^{はね}の紋様をよくよくみると、たとえばギンツバメ (*Acropterus iphiata*) のようにその幾何学模様の面白さに気づかされるものもいます。

ガの多くは夜間に活動するので、ガを集めて採集するために「灯火採集」というのを行います。「灯火」といっても火を焚くのではなく、光源を用いてガを集めます。このとき、昆虫の認識で

きる光の波長は、私たち人間よりも短い波長の方に偏っていますから、短い波長を多く出すブラックライトを使います。最近ではペットの粗相を検知するライトとして使われるので、光量の小さなものならば手に入れやすくなりました。この光を白い幕などにあてながら灯すことで、ガを集めることができます。こうして集まってきたガをスマホなどのデジタルカメラにおさめ、拡大してみると、小さなガであっても種ごとに様々な翅の紋様をもっていることがわかります。

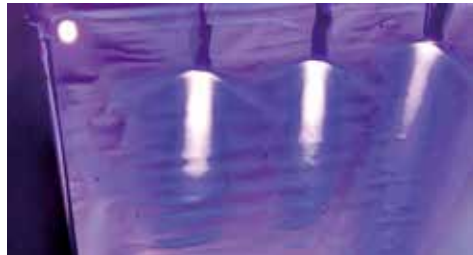
皆さんも自宅に白い布か紙とブラックライトがありましたら、一度試してみてください。ひとくりにガといっても、さまざまな種類があることがわかります。少し興味を持ったら、画像から大まかな種の同定ができるスマホのソフトもありますから、名前を調べてみてはいかがでしょうか。(生物研究係 長屋 昌恵)



アゲハモドキ



ギンツバメ



ブラックライトに集まる昆虫

研究の扉 骨の化石の中を覗いてみる

自然史博物館には様々な恐竜の全身骨格が展示されています。マメンキサウルスやガリミムスなどはレプリカですが、カマラサウルスとトリケラトプスの2種類は、どちらも実物化石を当館が所蔵しています。カマラサウルスについては、この化石を発掘したマイルスさんをはじめとするウエスタン古生物学研究所(当時)のスタッフ、そして竜脚類恐竜研究の大家であったマッキントッシュ博士(故人)が化石を調べ、群馬のカマラサウルス(GMNH-PV-101)が、カマラサウルス・グランディス(*Camarasaurus grandis*)だとする論文を執筆、当館研究報告1号として公表されました。そしてトリケラトプス(GMNH-PV-124)については、藤原慎一博士(現在、名古屋大学博物館)がまだ大学院生だったころに私も一緒に化石を調べ、その後2011年3月にトリケラトプス属の一種(*Triceratops* sp.)の若い個体だとする論文を公表しました(当館研究報告15号)。

こうして2種類の恐竜の種類(分類)はわかりましたが、古生物の研究はこれだけではありません。どちらの恐竜も全身骨格の相当部分が残っていて、しかも化石の産状などの発掘データがあるので、新たな研究課題もいろいろ考えることが

できます。そうした課題の一つが生物である恐竜がどのような生活をしたかということです。化石から恐竜たちの生活を探るべく、自然史博物館では福井県立大学恐竜学研究所の河部壮一郎研究室、福井県立恐竜博物館と共同で、CTスキャンによる骨化石の中の観察を行っています。

カマラサウルスでは、上下のあごの骨の中に保存されている血管神経管に注目し、その発達状況を調べました。この研究は竜脚類恐竜では世界初で、さらに恐竜で同一個体の左右の上下のあごの骨を調べたのも初でした。観察によってカマラサウルスの上あごと下あごでは、下あごの血管神経管の方が複雑に分岐(発達)して、その分岐が一部のワニ類や鳥類と同程度であることがわかりました。これらの結果から、カマラサウルスの感覚は、ワニ類やカモ類と同程度の鋭敏さで、下あごの触覚感度の高さから、知覚センサーとして重要だった可能性のあることがわかり、これらの成果に関する論文について準備を進めています。また、それと同時に、こうした研究成果を来るべき常設展示のリニューアルの際に、その一部に組み込むことも模索しています。

(地学研究係 高桑 祐司)



常設展示のカマラサウルスの頭骨(中央)と右上あご(前上顎骨+上顎骨)のCT画像(右)、右下あご(歯骨)のCT画像(左)。血管神経管(オレンジ色の部分)の発達は下あごで顕著です。青い部分は歯がはまる穴(歯槽)。(CT画像はどちらも外側面観/撮影 河部壮一郎研究室)。

国際連携で広がる、学びのかけ橋

ー インディアナポリス子ども博物館との連携事業2024ー

令和6年1月、当館は、専門知識の共有や互いの取組を学ぶことを目的に、アメリカ合衆国インディアナ州にあるインディアナポリス子ども博物館と連携協定を結びました。今回は、この連携協定において開発した教育普及プログラムを2つご紹介します。

まずは、「Create A Saurus ～きょうりゅうをつくろう～」です。



これは、4～6歳（未就学）のお子様とその家族を対象にしたワークショップです。イベントの前半では、参加者は古生物学者になって常設展の恐竜の骨格標本を観察します。まるいところ、とがったところ、ながいところ…など、骨格の特徴を親子で一緒に探し、ノートに記録します。そして、イベントの後半には、パレオアーティスト（古生物復元作家）となって、カラフルな粘土と様々なパーツを組み合わせて、自分だけの恐竜をつくります。

参加したお子様とご家族の声を紹介します。



新たな視点で展示を見ることができて楽しかったです。想像力を膨らませながら、作ることで、親子ともに貴重な時間になりました。

とても楽しかった！恐竜づくりで、羽やスパイクがあってかわいかったです。きょうりゅうを作るのがすごく楽しかったです。

子どもたちが博士気分で目をキラキラさせていて、本当に良かったです！大人も楽しめました！

次に、「Digging Through Time ～どうやって化石はできるの？～」をご紹介します。このイベントは、群馬県立自然史博物館とインディアナポリス子ども博物館をオンラインで繋いだワークショップです。参加者は日本にいながら、インディアナポリス子ども博物館の講師から学びます。イベント前半では、インディアナポリス子ども博物館の展示を見ながら、化石について学びます。後半は、カラーサンドと化石の模型を使って色鮮やかな地層を作りながら、地層の重なりと時間にどのようなきまりがあるのかについて学びます。最後には、参加者から講師に質問する時間もありました。英語で質問する場面も見られ、現地と交流する醍醐味も感じることができました。参加したお子様とご家族の声を紹介します。

化石のことを、もっとくわしく知れて、とてもうれしかった！

英語や化石についての勉強になって良かったです。とても楽しかったです！

子どもと楽しく化石について学習することが出来ました。質問タイムもあり、インディアナポリスの方とお話できてとても良い経験でした。



これからも群馬県立自然史博物館ではインディアナポリス子ども博物館と連携して教育普及プログラムを実施してまいります。ホームページ、SNS、イベントガイド等を通じて情報発信いたしますので、お楽しみに！

(教育普及係 綾小路 淳裕)

利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00 (入館は午後4:30まで)

■休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみの開催	510円 (410円)	300円 (240円)
第71回企画展開催時 (R7.3.15～5.18)	800円 (640円)	450円 (360円)



*中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。
*()内は、有料者20名以上の団体料金となります。

群馬県立自然史博物館だより
Demeter No.91

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<https://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。